

口蹄疫等家畜伝染病に対応した獣医師育成環境の整備

平成22年度補正予算（第1号） 予定額：2億円

（項）高等教育振興費 予定額

（目）大学改革推進等補助金 240,000千円

背景・課題

- 口蹄疫の国内発生、鳥インフルエンザなど人獣共通感染症への対応、BSEを契機とした食の安全への関心の高まりなどを背景に、国民の健康・生活を守るため現場の最前線で家畜診療や防疫に従事する、産業動物獣医師や公務員獣医師に対する社会的ニーズが高まっている。
- その一方で、近年、産業動物獣医師等を志願する学生が減少傾向にあるが、背景の一つとして、大学における産業動物に関する臨床実習の機会や教育内容が不十分であり、学生にその魅力や意義を十分伝えきれていないことが指摘されている。
- このため、全国の獣医系大学において、産業動物診療や家畜伝染病等防疫分野における臨床教育の充実を図り、高度な知識・技能を有する獣医師の養成を図ることが急務となっている。

対応・要求内容

【対応】

口蹄疫対策を担う産業動物獣医師等の養成強化を図るため、大学における教育環境の整備に必要な経費を支援。

【要求内容】

教育環境の整備への支援

産業動物診療分野や家畜感染症等防疫分野における臨床教育の充実・強化を図るため、必要な実習用機器等（超音波画像診断装置、遺伝子等解析システムなど）の整備を支援。

- 産業動物臨床実習の充実 8件 × 10,000千円 = 80,000千円
- 家畜感染症等防疫分野の実習の充実 16件 × 10,000千円 = 160,000千円

政策目標

国民の健康・生活の安心を確保するための、口蹄疫対策を担う産業動物獣医師等の養成強化。